

# 第2編 基本構想

みんなで作る加東きらめき★プラン



●基本構想の構成 .....	12
●第1章 まちづくりの基本理念 .....	13
●第2章 将来像 .....	15
●第3章 将来像を実現する まちづくりの基本目標 .....	17
●第4章 将来の基本フレーム .....	20
●第5章 地域別整備の方針 .....	22
●第6章 まちづくりの目標(施策大綱) .....	24
●第7章 実現に向けて .....	58

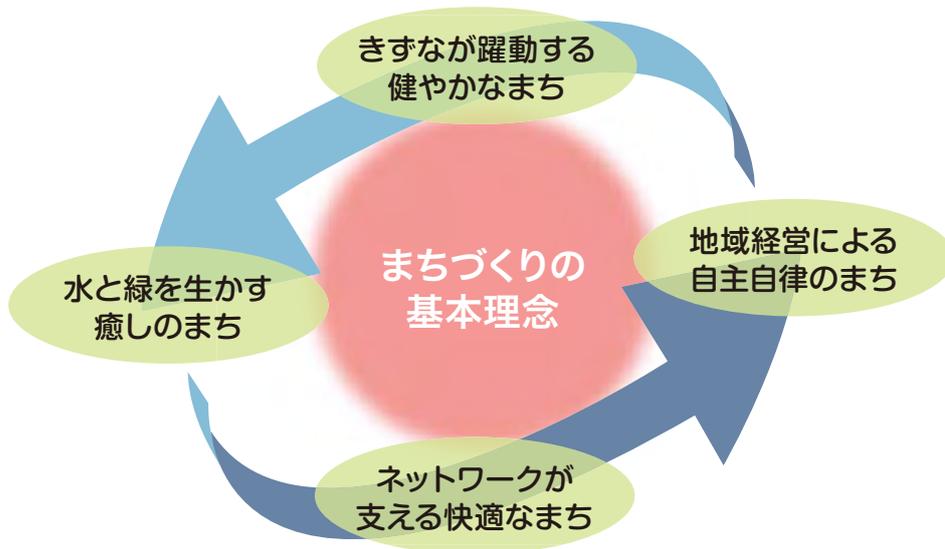
## 基本構想の構成

まちづくりの基本理念を踏まえて、将来像を設定し、将来像を実現するためのまちづくりの基本目標を掲げました。基本目標を実現するために、自主自律の行政経営に取り組みます。



## 第1章 まちづくりの基本理念

ゆとりと豊かさを実感できる安全・安心で活力のあるまちをめざして、地域資源を活かすという観点から、加東市は4つの基本理念でまちづくりに取り組みます。



### ● きずなが躍動する健やかなまち

地域の人々のこれまでのきずなを深めつつ、新しい出会いを通じて、互いに研鑽し合い、さらにきずなを広げます。こうしたきずなをもとに、地域文化を高め、地域主体のまちづくりを推進します。また、子どもたちがのびのびと個性を育める環境づくりを進めるとともに、誰もが安心して暮らし続けられるように、保健・医療・福祉の充実を図ります。

### ● 水と緑を生かす癒しのまち

地域が誇る雄大な景観である緑豊かな丘陵地とその合間を流れる河川を生かし、住む人々や訪れる人々に癒しを提供できるように、自然環境を守り育てます。また、誰もが安心して安全に暮らせ、住んでよかったと思えるように、生活環境の充実に努めます。

### ● ネットワークが支える快適なまち

地域の豊かな自然や地場産業、農業、観光資源など、さまざまな資源をつなぎながら、暮らしを豊かにし、若者にとって魅力ある産業の育成を図ります。また、道路・交通ネットワーク網の整備や情報通信基盤の充実に努め、快適な暮らしを支えます。

### ● 地域経営による自主自律のまち

地域資源の有効活用により、経済を活性化するとともに、市民ニーズを反映したまちづくり施策を地域の総力のもとに構築し、地域の社会福祉の向上を図る自主自律型のまちをめざします。そのために、さらに市民・事業者・行政による協働のまちづくりを進めます。



## 第2章 将来像

### 1 まちの将来像

加東市は、のどかな田園環境に包まれるとともに、加古川、東条湖、三草山などの自然資源があり、播磨中央公園、やしろの森公園などが整備され、豊かな自然環境に恵まれています。

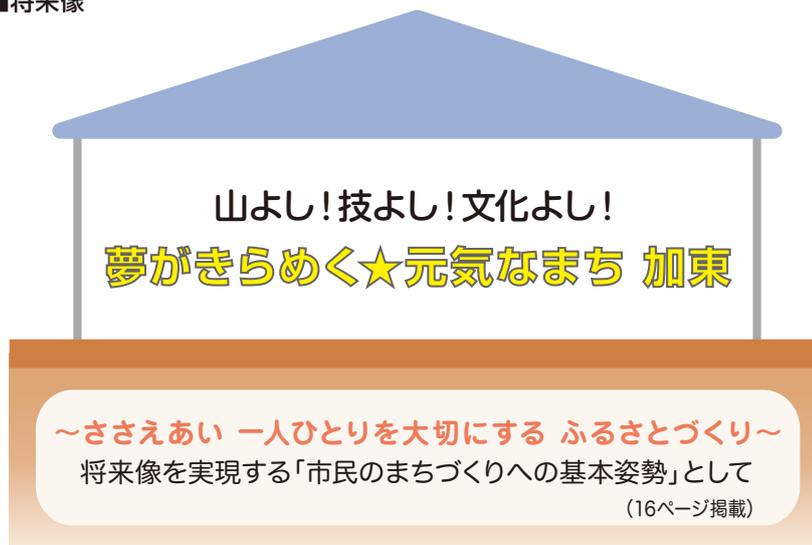
市内には、中国自動車道のインターチェンジが2か所あり、JR 加古川線が通り、広域交通にも恵まれた地域です。

また、山田錦をはじめとする農業が営まれる一方、工業団地などにおいて、多くの企業が活動しています。

さらに、兵庫教育大学、嬉野台生涯教育センターなどの教育施設や、やしろ国際学習塾、滝野文化会館、コスミックホールなどの市民が集う公共施設、近隣自治体にはないCATV施設などの整備により、多様な文化活動が展開されています。

本市は、これらの地域資源を活かすとともに、それぞれの地域のよさを継承しつつ、人と人とのつながり・きずなを深め、産業や文化活動の一層の活性化をめざします。

#### ■将来像



## 2 市民のまちづくりへの基本姿勢

加東市が、「夢がきらめく、元気なまち」になるためには、市民一人ひとりが元気で生きがいをもって暮らしていけることが大前提です。また、一人ひとりに目を行き届かせ、細やかで、あたたかい“ひとづくり”“まちづくり”を進めなければなりません。これまでのように、行政があらゆる市民ニーズに応えるという総合行政では限界があります。

加東の強みである“地域のきずな”は、行政の手の届かないところを補うのではなく、市民が主役となり、行政との新たな協働のもとで、加東に住むすべての人が誇りをもって暮らせるふるさとづくりを進めるにあたっての土台となるものです。この土台を堅固なものとし、次世代へ引き継ぐ中で、市民相互が“ささえあい”、一人ひとりを大切にす気風(気概)を育てながら「夢がきらめく☆元気なまち 加東」の実現をめざします。



## 第3章 将来像を実現するまちづくりの基本目標

まちづくりの基本目標は、将来像を実現するための政策と、これを実現するための事業の集まりである施策などを整理し、将来像実現に向けての課題や施策との関係などを明らかにするための基本的な枠組みです。これらの基本目標を具現化するために、各分野におけるまちづくりの目標(施策大綱)を掲げ、さらに基本計画において、より詳細な施策体系を編成し、これに沿って、市民・事業者・行政による協働のまちづくりを進めます。

### 文化 未来を拓く人を育む 文化のまち

未来を拓く鍵は人にあり、人を育む文化を創ることが重要という観点から、恵まれた自然や歴史など地域の資源を積極的に活用しながら、心豊かでうおいに満ちた市民生活を実現することが望まれます。

そのため、子どもたちが健やかに成長できる環境を整備するとともに、行政は市民の学習に対するさまざまな要望に的確に応え、市民は自らが学び、地域に根ざした魅力あふれる生活を創造します。

さらに、家庭、地域、学校、行政などが相互に連携を図りつつ、子どもが育ち、人材が育成される環境づくりを進めます。

### 安全 人と自然が調和した 安全なまち

わが国は、地震や風水害などの災害が多く、これまで各所で甚大な被害を受けてきており、災害に対する市民の防災意識は非常に高くなっています。

また、社会背景を反映して、環境、交通安全や防犯へのさらなる対応が求められています。

そのため、豊かで恵まれた自然環境と共生し、地域の人々のつながりを活かした環境対策、交通安全対策や防犯対策の推進、まちの防災力の強化などに取り組み、自然と調和した心がなごむ安全なまちをめざします。

**安心** 健やかで心がふれあう やさしいまち

全国的な少子化による人口減少と高齢化が同時に進行する中で、安心して子育てができ、一人ひとりが健康で生きがいのもてる地域社会づくりが重要となっています。

また、地域づくり活動やボランティア活動への参加意識が強まる中、市民の地域における子育て支援や高齢者への見守りなどの取り組みが広がっています。

そのため、市民一人ひとりの健康づくりをはじめ、地域医療の充実、地域のつながりを大切にした子育て支援や高齢者・障害のある人の自立支援、要援護者<sup>※</sup>の社会保障の充実を図り、健やかで心がふれあうやさしいまちをめざします。

**※要援護者**

重度の障害のある人やひとり暮らし高齢者など日常においても支援を必要とする人のこと。

**活力** 魅力ある資源を活かした 誇りのもてるまち

播磨地域の交通の結節点としての利便性や多様で魅力ある地域資源を活かしたまちづくりが必要です。

そのため、農業・商業・観光産業の有機的な連携の中で、市全体が一体となった地域産業の振興やまちの基盤整備を推進し、地域の活性化を図ります。

また、魅力ある企業の誘致や起業への取り組みを進めることで雇用の創出を図り、誰もが生きがいをもって働くことができる社会づくりを推進します。

さらに、コミュニティビジネス<sup>※</sup>や地産地消<sup>※</sup>の推進により、市民一人ひとりが多様な形で地域の活性化に寄与し、自らのまちに誇りがもてるまちづくりを進めます。

**※コミュニティ  
ビジネス**

地域課題の解消に向けて、行政や事業者などでは対応しにくい事業を地域住民が主体となって起業し、ビジネスの手法を活用しつつ有償で行う事業活動で、地域の需要対応型の小規模ビジネスをいう。

**※地産地消**

「地域生産、地域消費」の略語。地域で生産された農林水産物などをその地域で消費すること。

**快適** 暮らしと憩いが響きあう 心地よいまち

快適でかつ利便性のよい暮らしが求められる一方で、豊かな自然環境や人と人とのふれあいを大切にしたい心豊かな暮らしが求められています。

そのため、上下水道や道路環境、公共交通ネットワークなど、暮らしの基盤についての整備や充実を図るとともに、景観や住環境などに配慮し、市民の暮らしと憩いが響きあうような心地よいまちをめざします。

さらに、市民一人ひとりがまちづくりに対する意識をもち、さまざまな取り組みに主体的にかかわるとともに、行政はこれらの取り組みへの支援に努めます。

**協働** 多様なきずなが織りなす 協働のまち

市民一人ひとりが安心して幸せに暮らすため、あらゆる分野で人権を尊重する意識の高まりが求められています。

また、今後のまちづくりは行政主導から脱却し、市民と行政が共に責任を分かち合うという考え方のもとに、新たな意志決定の仕組み、新たな市民と行政の協働・役割分担のあり方が求められています。

そのため、すべての市民の人権が尊重される社会を築くための意識の高揚に努めるとともに、市民が平等に参画できる環境を整え、きめ細やかなまちづくりに対応できるコミュニティ<sup>※</sup>の育成や地域の自立、ボランティアの普及・啓発に努めます。

さらに、市民一人ひとりが自ら未来を切り拓くという気概を醸成することにより、協働の進め方を明らかにし、市民の多様なきずな(事業者・行政も市民の一人として)で、みんなが愛着のもてるまちづくりを進めます。

※コミュニティ  
人々が共同体意識をもって共同生活を営む一定の地域とその人々の集団。地域社会。共同体。

## 第4章 将来の基本フレーム

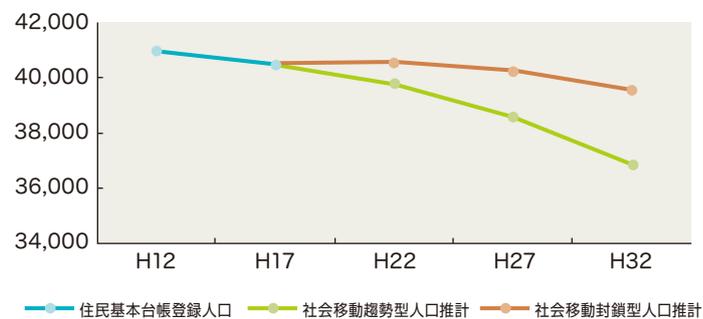
### 1 将来人口

人口は、平成12年をピークに減少しており、この傾向が今後も続くとして将来人口を予測(社会移動趨勢型人口推計)すると、計画目標年次の平成29年には38,000人を下回ります。人口減少は、少子化以外に、20~24歳の若年層からそれに続く44歳までの子育て層の流出が主な要因となっています。このような人口の社会移動がないと想定した将来人口を予測(社会移動封鎖型人口推計)すると、平成29年には約40,000人となります。

本計画では、子育て世代の定住・転入促進や就業機会の拡大など、“誰もがずっと住み続けたいと感じるまちづくり”を進めることで、40,000人をめざします。

#### ■人口推計結果と目標人口

	H12	H17	H22	H27	H29	H32
住民基本台帳登録人口	40,868	40,434				
社会移動趨勢型人口推計		40,434	39,578	38,312	37,697	36,774
社会移動封鎖型人口推計		40,434	40,513	40,212	39,962	39,586



※各種の行政サービスを受けるのは、基本的に住民票を置く市民となることから、実態に即した対応が求められる本計画では、住民基本台帳人口を基礎にした推計を採用しました。

※推計方法はコーホート要因法を用いました。コーホート要因法とは、その集団(年齢5歳層)ごとの時間変化(出生、死亡、社会移動)をもとに人口の変化をとらえる方法です。

※社会移動趨勢型:自然増減(出生・死亡関係)と社会増減(転入・転出関係)を見込んだ推計です。

※社会移動封鎖型:社会増減(転入・転出関係)は見込まず、自然増減(出生・死亡関係)を見込んだ推計です。

### 2 土地利用

市域は、加古川流域、千鳥川流域、東条川流域の各平野、中央部の丘陵や段丘、北東部の山地で構成され、全体として豊かな田園環境を形成しています。

今後も、豊かな田園環境を守りながら、産業や文化活動の一層の発展をめざすため、市民が、安全、快適で環境への負荷の少ない利便性の高い住環境を享受できる自然環境と都市環境の調和がとれた計画的な土地利用を進めます。

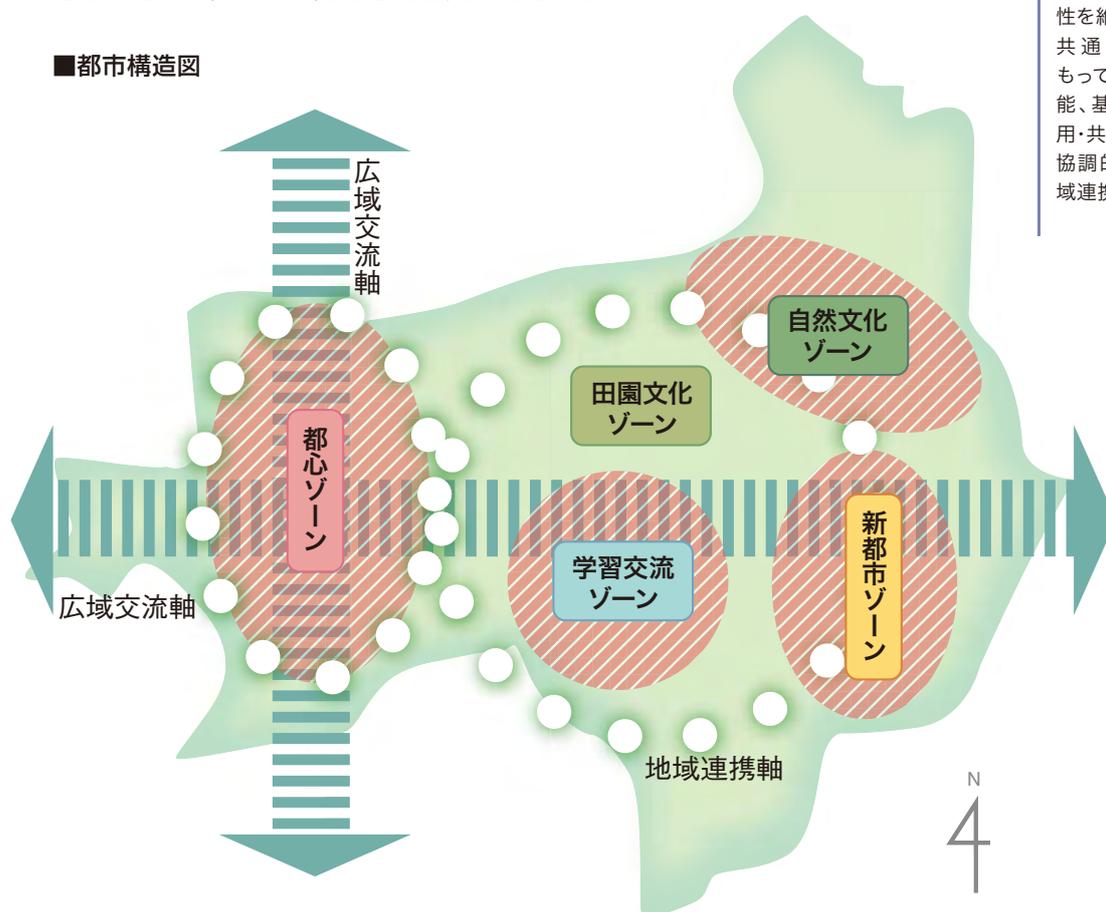
### 3 都市構造

東西に大阪と中国地方を結ぶ中国自動車道が走り、2か所のインターチェンジを有しています。南北には国道175号とJR加古川線、東西に国道372号が通り、臨海部と内陸部との結節点となっています。このような広域アクセス特性により発揮される本市の魅力を生かし、東西と南北の広域交流軸により、京阪神、中国地方、さらには全国との交流・連携を進め、市域の活性化を図ります。

また、2つの広域交流軸が結節する地域を本市の「都心ゾーン」とし、ひょうご東条ニュータウンインターパーク一帯を「新都市ゾーン」とします。中央部は兵庫教育大学を中心とした「学習交流ゾーン」、北東部の東条湖・やしろ鴨川の郷・三草山を含む地域を「自然文化ゾーン」とし、それらを取り巻く地域を「田園文化ゾーン」とします。

さらに、これらのゾーンが一体となって発展するように、本市を8の字で結ぶ地域連携軸<sup>※</sup>を設け、人々や資源を結び、連携を促進して魅力を高めるとともに、市域の均衡ある発展を図ります。

■都市構造図



※地域連携軸

複数の地域の核がそれぞれの個性と主体性を維持、確立しつつ、共通の目的意識をもって地域の資源、機能、基盤を相互に活用・共有化し、補完的・協調的活動を行う地域連携の取り組み。

## ● 都心ゾーン

広域交流と地域連携の核として、商業、産業、文化、居住、福祉、医療などの都市機能の集積を図り、市民の交流の中心的な役割を担うとともに、来訪者を迎え入れ、本市の魅力を発信する場としての機能を充実します。

市民、事業者、行政の連携によって、本市の未来を支える次世代の育成を促進する環境づくりを進めるとともに、高齢者、障害のある人、子育て世帯、女性、子どもなど、誰もが安心して暮らせる環境づくりを進めます。

また、播磨中央公園、滝野温泉ぼかぼ、闘竜灘、五峰山などを活用して、自然とふれあえ、やすらぎを提供する大都市近郊のリフレッシュゾーンとしての環境づくりを進めます。

さらに、工業団地を中心に、都市の産業活性化・雇用創出を担う工業・流通機能の集積に努めます。

## ● 新都市ゾーン

市の東玄関であるひょうご東条ニュータウンインターパークを本市の産業活性化の拠点として、職住複合機能<sup>※</sup>を備えた活力ある新しい市街地形成に向けて、産業や生活支援機能などの充実を図り、企業誘致と定住者の拡大に努めます。

また、伝統的地域産業の質的向上、商業の活性化、都市部・防災拠点などへの連携や交流を促進する交通網の整備、次世代を担う若者の定着をめざした居住文化、福祉など安心して暮らせる環境づくりに努めます。

さらに、京阪神への利便性を生かし、都市との交流人口の拡大を図るなど、都市機能を備えた魅力ある田園都市をめざします。

※職住複合機能  
職場と住居との複合的な機能。

### ● 学習交流ゾーン

兵庫教育大学、嬉野台生涯教育センター、やしろ国際学習塾などの教育機能、やしろの森公園などの自然体験機能を生かし、これらを活用した学習機能の充実を図ります。

また、本市の中央部に位置するという特性を生かし、子どもから高齢者まで、豊かな自然の中で誰もが気軽に集え、新しい出会いを生み出し、人と人とのきずなを深め、互いに支え合う交流機能の充実を図ります。

さらに、他地域からも多様な人々がこの地を訪れ、自然の中で楽しく学習できるように、本市の中央地域として、開かれた魅力ある学習交流拠点をめざします。

### ● 自然文化ゾーン

やしろ鴨川の郷、清水寺、朝光寺、三草山、東条湖など、自然環境や歴史文化資源の有機的な活用を図ります。

また、地域の活性化を図るため、観光、レクリエーション、環境学習、心のリフレッシュなどを求めて広域的に人が訪れ、多様な自然を利用した体験活動を満喫し、歴史文化にふれながら滞在できる環境づくりや情報発信機能の充実に努めます。

さらに、水資源のかん養<sup>\*</sup>、生態系の保全、大気の浄化などの役割を果たす森林を、市民参加など多様な方法によって保全に努めます。

### ● 田園文化ゾーン

地域の魅力である田園風景の維持を図るとともに、山田錦をはじめとする農産物の生産地として、田畑の保存に努めます。

また、田畑や里山、河川、ため池などを生かし、観光農園<sup>\*</sup>や体験型レクリエーション<sup>\*</sup>などの新たな活用を促進します。

さらに、田園空間の魅力を生かし、地域と調和した多自然型住居<sup>\*</sup>や地域の特性を踏まえた住居としての住空間の形成を図り、定住人口の拡大をめざします。

※水資源のかん養  
森林の公益的機能の一つ。樹木や地表植生などにより、降雨、融雪水の地下浸透を助長し、貯留水を徐々に流出させる森林の理水機能。

※観光農園  
農産物の収穫体験ができる個人農家の経営する農園、または農業法人。

※体験型レクリエーション  
「都市の散策」「伝統文化とのふれあい」「買物、飲食」「テーマパーク、遊園地」など。

※多自然型住居  
周囲の自然環境との調和をめざし、素材や形態などを考慮した住居。